

はじめに

ここ数年、地場産業の落ち込みが続き地域経済が低迷している長崎県では、科学技術の振興による産業の活性化が最重要課題です。

そのためには、地域にある豊かな資源と先人が残した知恵・技術を最大限に活用し、産学官の連携を強化することにより、それぞれが持つポテンシャルを集中的に引き出し、既存産業を高度化し競争力のある産業へと育成すること、新たな産業を創造することが必要です。

また、地理的に離島が多く最西端に位置する長崎県がこの21世紀を勝ち抜くためには、海洋県としての特長を活かしたオンリーワンの技術を開発すること、さらには地理的優位性を活かし、中国、アジアなど海外を視野に入れた経営戦略を深めていくことが必要ではないかと考えます。

このような状況の中、長崎県の7つの試験研究機関が連携組織となり、分野を超えての研究開発を始めてから3年目を迎えました。農・水・工連携、産・学・官連携による新たな成果が期待されています。窯業技術センターにおいても、2テーマの連携プロジェクト研究に取り組み、成果を目指し努力しているところです。

また、窯業技術センターは陶磁器産業を支える試験研究機関として、地域のニーズを踏まえた研究開発や技術支援を行うとともに、開かれた試験研究機関を目指し職員一同さらに努力して参ります。

本報告書は、平成16年度の業務を取りまとめたものです。関係各位の方々にご活用いただくとともに、ご意見をお寄せいただければ幸いに存じます。

平成17年7月

所長 福村 喜美子